

平成27年度 第2回新居浜市政策懇談会議事録

○日 時 平成27年7月22日（水）19:00～20:13

○場 所 消防庁舎4階 消防コミュニティ防災センター

○委員の出欠 出席28名（代理出席2名含）、欠席12名

○会議次第

1. 開会

市長あいさつ

委員委嘱状交付

2. 議事

(1) 新居浜市長期総合計画中間見直しの取組状況について

(2) 新居浜市人口ビジョンの概要（案）について

(3) 新居浜市総合戦略の基本目標（案）について

(4) その他

3. 閉会

1. 開会

事務局：定刻がまいりましたので、ただ今から「平成27年度 第2回新居浜市政策懇談会」を開催いたします。

本日は委員の皆様方には御多忙にもかかわらず、御出席をいただきまして、ありがとうございます。

まず、開会に先立ちまして、石川市長から御挨拶を申し上げます。

市長：改めまして、皆様こんばんは。開会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、また日中のお仕事でお疲れのところ、政策懇談会にご出席いただき、誠に有り難うございます。

さて、第1回政策懇談会でお話させていただいたとおり、平成27年度の当懇談会の活動内容といたしましては、「第五次長期総合計画の中間見直し」と「新居浜市の地方創生」について、委員のみなさまにご協議していただくことになっております。

いずれも、「笑顔輝く新居浜市」の実現のために、非常に重要なテーマでございます。

現在の作業状況、進行状況等につきましては、このあと詳しく説明をさせていただきますが、市民の笑顔輝く新居浜市実現のため、さまざまな分野でご活躍されております委員の皆様のお力添えをいただき、ご意見やアイデアをいただけることを期待しております。

本日はよろしく願いいたします。

事務局：本懇談会は平成25年6月に設置し、任期は2年としておりますので、平成27年6月をもって2年の任期が満了したことから、この度、任期満了による委員改選がありました。つきましては、ここで委嘱状の交付を行います。委員を代表して、新居浜商工会議所 小野 幸男様に市長より委嘱状を交付いたします。小野様 前をお願いいたします。

委嘱状 交付

なお、その他の委員の皆様への委嘱状につきましては、時間の都合上、あらかじめ皆さまのお手元にお配りさせていただいております。簡略となりますが、これを持ちまして交付に代えさせていただきます。委嘱状のご確認をお願いいたします。

議事に入ります前に、本日 欠席されております委員についてご報告いたします。新居浜青年会議所 越智委員さん、新居浜市歯科医師会 小溪委員さん、新居浜市心身障害者児団体連合会 関委員さん、新居浜機械産業協働組合 曾我部委員さん、新居浜市連合自治会 日野委員さん、新居浜市農業協同組合 福本委員さん、新居浜地区防犯協会 星加委員さん、住友金属鉦山株式会社別子事業所 村委員さん、愛媛県建築士会新居浜支部 柚山委員さんにつきましては、所用のため欠席とのご連絡を受けております。ご了承をお願いいたします。

また、新居浜市PTA連合会 永易委員さんの代理で橋川様にご出席いただいております。

また、本日オブザーバーとして、3名の先生にお越しいただいておりますのでご紹介させていただきます。松山大学経営学部経営学科教授の東渕則之先生、愛媛大学地域創成研究センター准教授の佐藤亮子先生、聖カタリナ大学人間健康福祉学部講師の釜野鉄平先生、本日はよろしく願いいたします。

まだ、お見えになっていない委員もいらっしゃいますが、それでは、これより議事に入りますが、本会議は、新居浜市政策懇談会設置要綱第3条第2項に基づき、会長および副会長は委員の互選により定めるものとされております。ここで事務局より提案ですが、これまでに引き続き、会長に新居浜商工会議所の小野幸男様、副会長に新居浜工業高等専門学校の迫原修治様、新居浜市食生活改善推進協議会の秦榮子様をお願いいたしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

ご承認ありがとうございます。

それでは、今年度の政策懇談会の取り組みについて、事務局からご説明いたします。

平成27年度の本懇談会における取り組みにつきましては、4月の第1回懇談会で決定いたしましたとおり、「第五次新居浜市長期総合計画の中間見直し」及び「地方創生」の二つについて取り組むこととしております。第五次長期総合計画の中間見直しにつきましては、分科会を設置し協議を進めていくことといたしております。

また、地方創生につきましても、本年度中を目途に「人口ビジョン」と「総合戦略」を策定する予定となっております。策定にあたりましては、委員の皆様からのご提案いただけたらと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、今後の会議進行につきましては、小野会長をお願いしたいと思います。

小野会長：皆さん、こんばんは。この度引き続き会長に就任いたしました、新居浜商工会議所の小野です。迫原副会長・秦副会長ともに本日はよろしく申し上げます。

さて、このたびの任期満了による委員改選で、今回新たに委嘱された委員もいらっしゃると思いますが、先ほど事務局からも説明がありましてとおり、今年度は「第五次新居浜市長期総合計画の中間見直し」及び「地方創生」の二つについて、引き続き取り組むことといたします。継続の委員さんも含め、委員の皆様には市政課題の解決に向け、本懇談会においてご審議いただきますよう、お願いいたします。

まず、議事に入る前に、当懇談会では設置以来、「経済再生」「コミュニテ

ィ再生」「教育力向上」「健康都市づくり」の4つのワーキンググループを設置して活動してまいりましたが、今期におきましてもワーキンググループは継続して設置したいと考えております。なお、今年度の各ワーキンググループのテーマにつきましては、本懇談会で取り組みます「長期総合計画の見直し」と「地方創生に関する総合戦略」の策定に向け、テーマを絞り込んで取り組みたいと考えております。詳しいテーマについては、後ほど市長からお示しいただきたいと思っております。

また、ワーキンググループの座長は政策懇談会の委員をもって充てることとなっておりますので、各ワーキンググループの座長を指名したいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、「経済再生ワーキンググループ」の座長は新居浜機械産業協同組合の曾我部委員、「コミュニティ再生ワーキンググループ」の座長は新居浜市連合自治会の日野委員、「教育力向上ワーキンググループ」の座長は新居浜市中学校校長会の横井委員、「健康都市づくりワーキンググループ」の座長は新居浜市社会福祉協議会の鈴木委員にお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございました。それでは、各委員さんに座長をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

2. 議事

小野会長：それでは、お手元の会次第に沿って議事を進めたいと存じます。

まず、議題1「新居浜市長期総合計画中間見直しの取組状況について」でございます。寺田企画部長から説明をお願いします。

部 長： (資料により説明)

小野会長：ありがとうございました。

ただいま、寺田企画部長から「新居浜市長期総合計画中間見直しの取組状況について」ご説明いただきましたが、なにかご質問はございませんか。

(意見・質疑) なし

小野会長：ご質問がないようですので、次に、議題2「新居浜市人口ビジョンの概要（案）について」、石川市長から説明をお願いします。

市 長： （資料により説明）

小野会長：ありがとうございました。

ただいま、石川市長から「新居浜市人口ビジョンの概要（案）について」説明をしていただきましたが、なにかご質問はございませんか。

(意見・質疑)

橋 川様：PTA連合会の橋川です。1つ質問があります。9ページですが、大学専門学校へ進学で転出が多いのはわかりますが、もう1つ気になるのが、10～14歳から15～19歳のところで転出が多いこと。この理由をどう解析されているのか伺いたい。

小野会長：ただいまの質問に対してお答えをお願いします。

市 長：10～14の転出が多いのは、考えられることは、小学校・中学校を卒業して、市外の中学校・高校に進学する方がかなりの数、掴んでいるだけでも100人くらいはいると思います。具体的に言いますと、愛光中学校への進学、中学から市外に進学、スポーツ等で県外に行く、松山なら通っている人もいるかもしれませんが。また、親の転勤によるものも考えられます。

小野会長：ありがとうございました。

よろいしでしょうか。ほかになにか質問はありませんか。ご質問がないようですので、次に、議題3「新居浜市総合戦略の基本目標（案）について」でございませう。

石川市長からご説明をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

市 長： （資料により説明）

(ワーキンググループのテーマ説明)

小野会長：ありがとうございます。

ただいま、石川市長から「新居浜市総合戦略の基本目標（案）について」、また、関連して本年度のワーキンググループのテーマについてもご説明がありました。このことについて、なにかご質問、ご意見はございませんか。

(質疑・意見)

近 藤様：環境市民会議の近藤です。先ほどの人口減少の話と総合戦略の両方の話に関連して、みなさんも御存知のように、東京圏には人口が流入しています。しかも、ここ数年は男性よりも女性が多い。大阪・名古屋も同じです。その理由は、田舎出身の女性が、実は田舎で住みたいが、田舎には仕事が無いこと。本市は工業・田園都市のため、ものづくりブランドの創出に古くから大きなテーマとして実践していますが、男性の仕事のイメージがあります。大いに発展すべきだと思っているが、女性も含めた事業展開をもっと前向きに考えた方がよいと思います。ヨーロッパのかつて先進国だったところでは、市民が心豊かに暮らしているということをよく聞きます。人口が減り、コンパクトなまちづくりというものが、負のイメージではなく、心豊かなまちづくりというようにを考えると、文化・教育・医療というところに、女性の力、働き場所が関わってくると思います。若い女性が働きながら、子育てがしやすい環境づくりという視点で前向きに考えられたらいいと思います。

小野会長：大変貴重な意見をありがとうございました。この件に関してお願いします。

市 長：昨年5月に日本創生会議が発表した全国の1800の市町村のうち、2040年には約半数の市町村が消滅する可能性があるという発表がされたが、その時の根拠がまさに、20代から30代の女性の2040年までの減少率が50%以上の町は消滅可能性都市とされました。女性の数が減少すると子供が産めなくなるためだろうと思います。新居浜の場合は、大学進学の後、女性が帰ってきていない状況。そのようなことから、女性が働ける環境づくり、女性が住みたい、住み続けたいと思える魅力あるまちにしていくことが大切だと思っています。そのような施策を重点的に行いたいと思います。

小野会長：今後のワーキンググループや分科会の中でこのようなことも踏まえながら議論していただきたいと思います。

井原委員：新居浜市女性連合の井原です。第1回の政策懇談会の資料を見ていて、地方創生がたくさん言われるが、なぜ今地方創生と言われるのか、地方が消滅する危険にあるから言われているのかと危惧しています。自分の仲間を見ると、孫が働く世代になってきましたが、話をしていると、現代っ子は、考え方が違います。シングルマザーをいうことを聞くことも多くなってきましたが、女性が一人で子供を育てることに、まだ偏見があるのも事実です。子供ができたら、シングルであろうと結婚していようと、子供を社会で育てようというスウェーデン方式をフランスが真似て人口が増えています。日本に当てはめるのは難しいですが、これからは、市のみならず、県、さらに国で考えるべきだろうと思います。そして、差別化に対しての意識改革を始めてもいいのではないかと思います。

小野会長：ありがとうございました。この件に関してお願いします。

市長：地方創生については、半数の市町が消滅する可能性があるという発表がされたことが大きな要因と思います。地方に仕事を作り、人を呼んで雇用を創出し、地方を活性化するということになります。

次に、シングルマザーの件については、日本についてはまだ偏見があるように思いますが、少し時間がかかると思います。

小野会長：ほかにありませんか。

ほかにないようでしたら、ここで、本日懇談会にご出席いただきましたオブザーバーの皆様からもご意見、ご助言をいただければと存じます。

どなたからでも結構ですので、お願いいたします。

釜野講師：コミュニティの再生ということで、全て共通していることは、「生活」というところだと思います。コミュニティには、外から来ている人が中心のもの、昔からあるもの、新しいものと昔のものが共存しているものがあります。それぞれのコミュニティで、必要な施策、資源、住民が抱える不安は違ってきます。よって、スタートした時に、柔軟に対応できる横の繋がりや施策が

必要になってくるのではないかと思います。

佐藤准教授：ものづくりのこの町で女性がどう扱われるのかとても興味があります。よく、女性を活用しようと言いますが、女性はやはり活用される立場のものなのかとも感じます。ただ、客観的にみると、女性が増えないと人口は増えません。では、どうしたら女性が戻ってくるのか、そのことを考えながら話を聞いていました。そこで、女性が好きなものは何かを考えると、やはり「観光」ではないでしょうか。観光まちづくりというように、観光を目的にするのではなく、観光を手段にまちづくりをするという発想があります。いろいろな課題の解決に観光まちづくりを取り入れてほしいと思います。

そして、ものづくりの1つにもなりますが、女性には「食」が魅力になるのではないのでしょうか。食が地域の魅力を高めていくことに繋がると思います。何か具体的な取り組み案を考えて欲しいです。

東淵教授：大学生を見ていますが、確かに、新居浜に帰らないのが現実です。特に女性は松山近辺で職を求めています。今後に向けて、学生にとって魅力のある職場が増えていく必要があると考えます。魅力がある職場というのは、1つは「安定」、もう1つ大きいのが「やりがい」です。少しでもやりがいを感じられる職場づくりをすることがひとつの方向でもあるのではないかと思います。

女性の活用ということですが、活かして用いるのではなく、女性が活きる職場が必要になるだろう。女性が働きやすい職場づくりが求められていると思います。

戦後の経済を見ると、成長の経済、いわゆる男の経済から、次の価値観を求める20年、これが失われた20年と言われている時代、そして、次の価値観は一体何だろう。Sustainability ということですが、Sustainabilityの時代というものは、物的豊かさに比べると、人との絆、感性というものが経済の発展原動力となります。これを担うのは男性よりも女性の方が向いていると思うんです。女性の強み、良さというものを持っており、この持ち味を活かす場所の提供が必要ではないでしょうか。

地方創生の時代は、持続可能でないところが増えてきている、ということの裏返しで、おそらく、今までの自分たちの生き方を問われています。今までの生き方を自ら変えていくことが求められるのではないのでしょうか。

経済の再生、雇用の創出ところで、経済部が中心になると思いますが、そこがベースになり、その上に、コミュニティや健康都市づくりや、教育などが乗っかってくると思うので、経済部には期待したいと思います。

小野会長：貴重なご意見、ありがとうございました。

いただきましたご意見につきましては、今後の活動に活かしてまいりたいと思います。

それでは、最後に事務局から次回の懇談会について説明をお願いします。

事務局：ワーキンググループですが、テーマについては、先ほど市長の方から申し上げましたが、ワーキンググループの委員については、テーマに関連のある団体から実務者レベルの委員を選任していただきたいと思います。後日、改めて市から関係団体に委員選任の依頼をしますので、よろしく願いします。

次に、政策懇談会について、次回、3回目の懇談会は10月に予定いたしております。3回目の懇談会では、主に「地方創生」に関する各団体からの提案についての協議をさせていただきたいと考えております。

第3回懇談会の具体的な日程につきましては、改めて設定させていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

小野会長：何かご質問がありましたらお願いします。

(質疑なし)

3. 閉会

小野会長：ないようであれば、本日の懇談会を終了したいと思います。

委員、オブザーバーの皆様には、長時間にわたる熱心な御審議をいただきありがとうございました。閉会いたしたいと思います。御協力ありがとうございました。